

# 道元禅師ものがたり

10

いよいよ日本へ帰る日が

来ました



No. 34  
2011 Winter

山松舎  
寺南臨

とどまるよう説得したのです。

船旅は最初順調でしたが、途中で台風に襲われます。荒海で木の葉のようにもまれる船。道元禅師は船上に坐して、「観音経」を唱えます。すると波の上に一枚の蓮の花びらに乗った観世音菩薩が現れました。するとそれまでの暴風雨が嘘のように海が静かになっていきました。

こうして、道元禅師は、明全和尚の遺骨を胸に九州・熊本に到着したのです。

## 坐禅そのものが悟りの姿

宋に渡って二年あまり。二十五歳の道元禅師は師の如浄禅師から、お釈迦様以来の法統を継ぐことを許されました。

その後も道元禅師はさらに修行に努め、坐禅に打ち込みました。「坐禅そのものが悟りであり、悟るために坐禅するのではない」という思いが強くなっていきました。

その頃の逸話が残っています。ある

観音霊場に参詣したとき、道元禅師は虎に襲われました。禅師が持っていた杖を投げつけると、杖は龍となって禅師を守りました。禅師が岩の上で坐禅をすると、虎は逃げて行きました。

## 日本の人々に本当の仏教を

二年後、宝慶三年（一二二七）のことです。寧波の港の日本人商人から「来月、日本に帰る船が出ます」という知らせが道元にもたらされます。

しかし、如浄禅師は病床にありました。道元禅師が船便の件を切り出すと、如浄禅師は、「そなたが看病してくれたからといって、私の病状が変わるものでもない。それより日本の人々に本当の仏教を伝えることのほうが大事だ」と帰国を勧め、五代前から伝わる法衣、如浄の肖像画、禅の書籍などを授けたのです。

## 荒海に観音菩薩が

七月上旬、道元禅師一行は寧波を出港しました。港へは如浄禅師の弟子の寂円が見送りに来ていました。

実は、寂円は「道元様と一緒に日本に渡りたい」と願ったのですが、道元禅師は病床の如浄禅師のためを思い、



# 弁財天祈禱会を 一月十五日に修します



新年を迎えて臨南寺では、二月十五日午前十時から、本堂で弁財天祈禱会を修します。

弁財天さまは七福神の一人。臨南寺の弁財天様は古くから地域の守護神として、人々の信仰を集めてきました。合格祈願、芸能上達、商売繁盛に靈験あらたかと伝えられています。法要では、『大般若波羅蜜多經』を転読いたします。『大般若波羅蜜多經』は、古来より大きな靈力を持つと信じられてきた有難いお経です。

今年には東日本大震災をはじめ、国の内外で様々な災害が数多く起こりました。新しい年が安らかで穏やかに過ごせますよう、また世界から戦争や飢餓が少なくなりますよう——そして、檀信徒の皆様やご参拝の皆様が無病息災・家門隆盛・家内安全を祈願し、お札、お守り、破魔矢をお授

けいたします。

法要の前に、護寺会の会計報告、総代さんのご挨拶、そして山形県の

正常院副住職・成澤祐吾師の法話があります。法要の後には、稜伽林で甘酒の振る舞いもごさいます。

旧年に感謝し、新しい年の厄を払い幸せを祈る弁財天祈禱会。ご家族、お友達、お誘い合わせの上お参りください。



無病息災・家内安全を祈念し、住職がお払いをいたします。

## 臨南寺 景百



### 梅峰竺信禪師の彫像

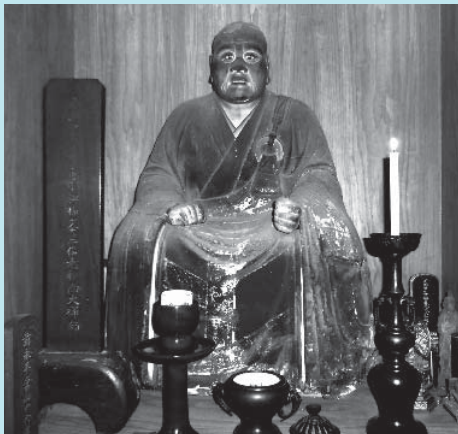
臨南寺の開山は萬安英種禪師ですが、その後を継いだのが梅峰竺信禪師です。二世中興と称されています。寛永十年（一六三三）九月大阪で生まれ、七歳で塾に入り読み書きを始めましたが、十日もたつと四書十巻を朗読し人々を驚かせました。

十歳で兵庫県の安養寺で仏門に入り剃髪受戒しました。慶安元年（一六四八）宇治の興聖寺の萬安英種禪師に参じました。万治二年（一六五九）興聖寺の龍蟠禪師の門に投じて法を継ぎました。寛文六年（一六六六）安養寺に帰り住職となりましたが、その年總持寺に上がりました。二年後、豊岡の養源寺に移り仏教を広め、豊岡城主の京極氏の尊崇を受けました。延宝四年（一六七六）永井尚長の要請により興聖寺の住職となりました。貞享元年（一六八四）五十一歳で興聖

寺を辞し、臨南寺に隠棲します。貞享四年（一六八七）水戸光圀公は師の名声を聞き耕山寺に招きますが、三年後病気のため、臨南寺に帰山しました。

元禄十三年（一七〇〇）六十七歳のとき、曹洞宗の嗣法のあり方の乱れを憂い、京都鷹峰の卍山道白禪師と協議して、幕府に訴え出ました。珪州（臨南寺三世）・藏雲（臨南寺四世）の二人の弟子を従えて江戸に向向。師の必死の訴えが認められたのが元禄十六年。嗣法の悪弊を禁止する旨、永平寺・總持寺両本山から全国の寺院へ通達されました。これが世に言う、宗統復古運動です。

宝永四年（一七〇七）七十四歳で奈良の興禪寺で生涯を閉じました。



開山堂に安置された梅峰竺信禪師。



# 絆を大切に感謝の日々を

平成二十三年も残すところわずかになりました。檀信徒の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。



臨南寺 住職  
大澤正道

先般皆様方にご報告・お願い申し上げました本堂の屋根葺き替えに際しましては、ご理解・ご協力・ご支援を賜り、誠に有難うございました。

本年は、東日本大震災に始まり、国内外で自然災害が頻発し、改めて人と人の繋がりが、絆の大切さを感じる年であったと思います。

お陰様で十月末にすべての工事が終了いたしました。

この気持ちを忘れることなく、支えていただいている多くの皆様に感謝し、日々暮らしていきたいと考えております。

先代住職が再建して以来、約四十年の歳月が過ぎ、新たに再建当時の美しい本堂によりがえりました。これからも臨南寺のシンボルとして、皆様方に親しんでいただきたいと思えます。

皆様方にはよいお年をお迎えいただきますようご祈念申し上げます。合掌

二月十五日

## 釈尊涅槃会を営みます

二月十五日は、お釈迦様が入滅された日です。

臨南寺では本堂に涅槃図を掲げ、追慕と感謝の思いをささげる「釈尊涅槃会」を営みます。



涅槃図には悲しむ弟子たちとともに、牛やトラなどの動物と鳥などの姿が描かれています。

死期が迫ったことを悟ったお釈迦様は、サーラの二本の樹の間に、頭を北に右脇を下に両足を重ねて横たわりました。サーラの花が満開になり、お釈迦様の体に降ってきた。天上からも花が降り注ぎ、美しい音楽が聞こえてきました。

静かに目を閉じ、微笑を浮かべたお釈迦様は、涅槃に至りました。涅槃とは「ニルヴァーナ」の訳で、「吹き消す」という意味です。お釈迦様から火が消えるように煩惱が消え、解脱されたのです。

涅槃図は二月十五日から本堂に掲げられますので、お参りのときは合掌してご覧ください。

## 年末年始のゴミは

### ゴミ用コンテナに入れてください

十二月三十日～一月四日の間、寺務所の向かいに「ゴミ用コンテナ」を設置します。お墓まわりのゴミはすべて「ゴミ用コンテナ」に入れてください。花や紙類だけでなく、缶や瓶もOKです。墓苑を美しく清潔に保つていただきますようご協力をお願いします。

## 臨南寺行事予定 (1～2月)

### 弁財天祈禱会 (本堂)

一月十五日 午前十時

新年を迎えて最初の年頭の法要です。新しい年がよい年になりますよう、厄を払い福を授かる法要を催します。温かい甘酒の振る舞いもごさいます。誘い合わせてお参りください。

### 釈尊涅槃会 (本堂)

二月十五日 午後三時

お釈迦様が入滅された二月十五日、嘆き悲しむ弟子たちに囲まれたお釈迦様の姿を描いた涅槃図を掲げ、追慕と感謝の気持ちをささげます。法要のあと涅槃だんごが振る舞われます。

\* 一月一日～三日は、寺務所は閉めさせていただきます。

線香、ろうそく、花等は、本堂前で販売しております。

\* 一月の早朝坐禅会と読書会はお休みです。

毎月第一土曜日に行っております早朝坐禅会と第二土曜日の読書会は、二月はお休みさせていただきます。

\* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

# 臨南寺の経理を担当しています

初めまして、三月から臨南寺の経理を担当させていただきます。お寺にお勤めすることには何の抵抗もありませんでしたが、宗教に関して知らないことが多く、言葉が理解できなかったり、行事の進行に戸惑ったりして、うまく動けないことが多く、申し訳なく情けない気持ちでいっぱいでした。でも、住職をはじめお寺様、寺務所の皆さんに教えていただき、助けていただいていたことが現在に至っております。



たがみ まさみ  
田上 真佐美

今までのいろいろな状況に遭遇し、家族や友人に助けられて乗り越えたように思っておりますが、お寺で過ごしているうちに、自分の周りのたくさんの人達に支えられ、ご先祖様に護られて生かされてきたのだと、感じるようになりました。子育て、仕事と、がむしゃらに生きてきましたが、

今はおかげ様で、日々穏やかに過ごさせていただきありがとうございます。学生時代に何度も隣でテニスコートに来ておりましたが、自分の身近な所にある大きなお寺があるとは気づきませんでした。桜が咲き、蝉が鳴き、紅葉へと季節を感じられる自然豊かなお寺で、和やかな皆さんに囲まれてご指導いただき、前向きに一生懸命務めたいと思っております。経理を担当しており、お参りにこられる皆様に接する機会が少なく、至らない点もあるかと思いますが、これから長い目で温かく見守っていただきますよう、どうぞ宜しくお願い致します。

## マトリ合同法要

### 生かされている喜びと感謝の一日

十一月十三日(日)午後二時から、がつしょう園マトリの合同法要が本堂で営まれました。

法話は、前回に引き続き山形県の正常院副住職の成澤祐吾師です。堂内にやなせたかしさん作詞の「アンパンマンのマーチ」が流れました。感謝をして生きることの大切さを歯切れよく説かれました。

法話を聞いたあとマトリに移り、読経が続くなか、ご焼香し手を合わせていただきました。お墓の継承が難しい時代を反映してか、永代供養のマトリへの入会が増えています。



正常院副住職の成澤祐吾師の法話。

### 墓苑をご利用の皆様へお願い

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーや紙オムツも絶対流さないでください。

### 編集後記

最近、アランという哲学者とその著書『幸福論』の存在を知りました。

「幸福という山は誰の前にもある。しかしそれをよじ登らなければ手に入れることはできない」そして「幸福への第1歩は微笑むことから」というのですが、いかがでしょうか?(M)

### お気軽にご参加ください

#### 早朝坐禅会

毎月第一土曜日  
午前六時半〜 本堂にて  
\*二月・八月は、お休みさせていただきます。

#### 写経会

毎月二十日 午前十時〜午後三時  
写経料・千円 椋伽林一階にて

#### 『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時〜  
\*二月・八月は、お休みさせていただきます。  
\*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ〜っと」34号

平成23年12月

編集・発行：椋伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com